

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2103 号

Clinical Use of Expanded Prostate Cancer Index Composite-based health-related quality of life outcomes after Robot-Assisted Radical Prostatectomy for prostate cancer

(前立腺癌に対して Expanded Prostate Cancer Index Composite を用いたロボット支援根治的前立腺摘除後の健康関連 QoL 評価)

福田 和泰 (ふくだ かずひろ)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

Expanded Prostate Cancer Index Composite (EPIC)を用いロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術 (RARP)を受けた本院の患者を対象に術前から術後 36 カ月までの健康関連 QoL (HRQoL)を検討した。患者背景は 2012 年 4 月から 2018 年 8 月までに RARP を施行した前立腺癌患者 573 人、年齢中央値は 67 歳 (IQR:62-71)、術前 PSA 中央値は 7.26ng/ml (IQR:5.45-10.2)。術後スコアが術前スコア-1/2 標準偏差よりも上回った集団を回復群と定義した。連続変数は T 検定、カテゴリ変数は  $\chi^2$  乗検定で後ろ向きに解析した ( $P < 0.05$ )。

術前後のスコアは、全ての排尿サブドメインは術後 1 ヶ月では術前に比べ低下した。排尿刺激・下部尿路閉塞サブドメインを除き、術後 36 ヶ月の各排尿サブドメインは術前に比べ優位に低下した。排便総合サブドメイン、排便機能サブドメインは術後 36 ヶ月間、優位に低下した。排便負担感サブドメインは術後 15 カ月以降、有意な低下を認めなかった。術後 36 ヶ月まで性総合サブドメイン、性機能サブドメインは術前に比べ優位に低下した。全てのホルモンサブドメインは術後早期に術前状態に回復した。各サブドメインの回復群の割合は、尿失禁サブドメインは 44.5%と最も低く、排尿刺激・下部尿路閉塞サブドメインは 73.7%と最も高かった。性機能サブドメインは 29.7%、性負担感サブドメインは 73.0%であった。排便機能サブドメイン、排便負担感サブドメイン回復群の割合 (機能:75.0%、負担感:87.9%)とホルモン機能サブドメイン、ホルモン負担感サブドメイン回復群の割合 (機能:87.2%、負担感:90.0%)は、それぞれの機能と負担感に相違なかった。術後 36 カ月後までの各サブドメインの回復率は、排尿ドメインは患者の 60%以上の回復を認めた。性ドメインは性総合サブドメインの回復が最も遅く 39.7%であった。排便ドメインの機能と負担感サブドメインは 80%以上、ホルモンドメインの機能と負担感は 90%以上回復した。

本研究は日本人の RARP 後の QoL 結果として縦断的分析を提供した。